

知的障がい者の特性を生かした企業「デジタルハーツ」の視察

2022年4月13日 デジタルハーツ

株式会社デジタルハーツは、ソフトウェアの不具合を検出するデバッグ・システムテストサービスを中心に行うIT企業。引きこもり経験のある方や、発達障害などの特性のある方を積極的に採用している。引きこもり状態にあった人などの未就業者であっても、第一線で活躍している人がたくさん居る。

山田太郎が考える目指すべき社会

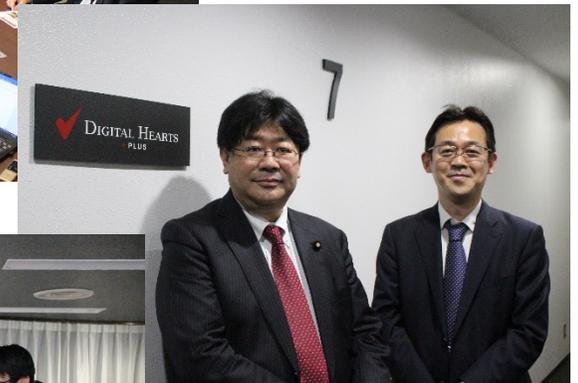
- 常に障がい者は、弱者視点で、施される存在だとされてしまうが目指すべきは「協働社会」。インクルーシブであるべきである。
- 特化した才能を発揮できる場所が必要



■「ハートフルポイント制度」(案)

障がい者雇用を、企業・社会全体で支える仕組み。障がい者が提供する商品やサービスを、法定雇用率が不足している企業が購入するとポイントが付与され、そのポイントが不足している法定雇用率の計算に考慮される制度。

障がい者が働きやすい環境である業種・業態の職種の企業は、製品やサービスの提供に力を入れ、売上が上がることで、より障がい者の雇用や賃金上昇等へつなげる。また、障がい者には厳しい職種・職場環境の企業は、それらの製品やサービスを優先的に購入することにより、障がい者雇用を間接的に支える。



精神障がい、発達障がいの方がIT人材として活躍できる社会へ。意見交換を実施。